

今回のザ・コンチェルトVol.6は、日本製鉄紀尾井ホールが改修のため休館前夜のコンサートです。このホールの素晴らしい雰囲気とアコースティックを心に刻み付けるスペシャルなコンサートです。ぜひお楽しみください。



渡邊一正

指揮・ピアノ

Kazumasa Watanabe (Conductor)

東京生まれ。1991年に東京フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。1992年、東京フィルの指揮研究員として入団後、1994年に副指揮者、1996年より2015年3月まで指揮者、2015年4月より2021年5月までレジデント・コンダクターを務める。また1995年～2002年には広島交響楽団正指揮者も歴任。1998年にはNHK交響楽団の指揮台に初登場し、それ以後N響とは定期演奏会を始め数多くの共演が続けている。第69回日本音楽コンクール作曲部門(管弦楽:東京交響楽団)と第77回同コンクール・ピアノ部門(管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団)の本選会演奏に対しコンクール委員会特別賞を贈られる。日本国内のオーケストラとは読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、京都市交響楽団、九州交響楽団、札幌交響楽団、群馬交響楽団を始め主要なオーケストラに定期的な客演を行ない、その音楽性と指揮に対する信任を確実に得ている。オペラ、バレエでの活躍も目覚しく、新国立劇場でマスカーニ歌劇「友人フリッツ」を、同劇場バレエ団では「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」などを指揮し、2006年の「白鳥の湖」新演出の指揮も任せられ大成功を取めた。2022年1月には谷桃子バレエ団「ジゼル」公演を、急遽公演直前に代役を務め好評を博した。また彼の指揮活動は国内だけでなくとどまらず、海外でもサンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、確実にキャリアを積んでいる。また、故すぎやまこういち氏からの信頼も厚く、ドラゴンクエストコンサートを多数指揮する。ピアニストとしても8歳の時に東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団とハイドンのピアノ協奏曲を協演。1987年から1989年には渡欧し、ダルムシュタット音楽アカデミー、ハンス・ライグラー教授のマスタークラスでピアノを学ぶ。その後東京フィル定期、広島交響楽団定期、大阪フィル、札幌交響楽団などのオーケストラと、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番、第5番「皇帝」、ラヴェル、モーツァルト、ガーシュウィンなどの弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も評価されている。



清水和音

ピアノ

Kazune Shimizu (Piano)

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。1982年、デビュー・リサイタルを開き、高い評価を得た。1983年、第9回日本ショパン協会賞を受賞。同年「プラハの春音楽祭」にて、プラハ室内管と共演。この成功により1984年、プラティスラヴァ音楽祭のオープニングでスロヴァキア・フィルのソリストとして招待された。また同年、ミュンヘンのヘラクレス・ザールでデビュー・リサイタルを行った。ロジェストヴェンスキー指揮ロンドン交響楽団、ジャンナンドレア・ノセダ指揮キーロフ歌劇場フィルハーモニー管弦楽団、ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団、アシュケナージ指揮シドニー交響楽団などと共演を重ね、国内外で広く活躍。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライブ録音が発行された。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛された。2024年10月には「清水和音の芸術」と銘打たれ、そのベートーヴェンピアノ・ソナタ全集、ソニーミュージック時代、RCA時代の全てのCDが再リリースされている。2011年、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番～第4番とパガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間では春秋・年2回のリサイタル・シリーズ「清水和音 ピアノ主義」を開催。スカラッティとバッハに始まり、古典派からロマン派を中心に20世紀のピアノ曲まで、幅広いレパートリーで聴衆を魅了した。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、パティストーニの指揮で、ブラームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熱演。同年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸劇ランチコンサート」を開始。デビュー40周年となった2021年には「清水和音 ピアノの祭典」と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。毎年春に開催している「三大ピアノ協奏曲の饗宴」では、ベートーヴェン「皇帝」、チャイコフスキー第1番そしてラフマニノフ第2番の3曲を一気に披露するなど、精力的な活動が続けている。桐朋学園大学・大学院 教授。



最寄駅

- 四ツ谷駅 麹町口・赤坂口(JR線・丸ノ内線・南北線) 徒歩6分
- 麹町駅 2番出口(有楽町線) 徒歩8分
- 赤坂見附駅 D出口(銀座線・丸ノ内線) 徒歩8分
- 永田町駅 7番出口(半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分



日本製鉄 紀尾井ホール